

動物実験施設における災害時の対応

—平成28年(2016年)熊本地震における熊本大学生命資源研究・支援センター 動物資源開発研究施設(CARD)の事例—

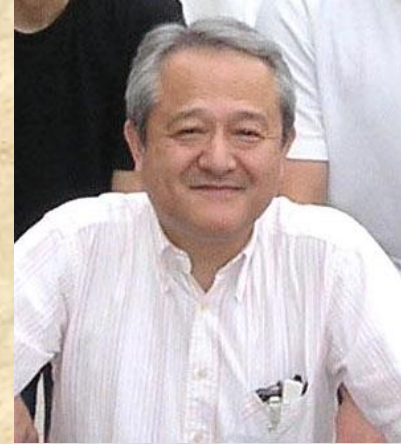
演者: 中瀬 直己

日時: 7月28日(木) 16:00~17:00

場所: 機器部門3Fカンファレンスルーム



平成28年4月14日(木)および16日(土)、震度7の強い地震が熊本県を襲った。震度7の地震が2回連続で起こった例は、日本の観測史上例が無く、当施設でも建物や高額精密機器などに極めて甚大な被害をもたらしたが、関係者の必死の努力によって、動物施設の飼育環境は正常に維持、マウス飼育エリアが高層階(7~10階)であったにもかかわらず、死亡した動物もほとんど無く、最悪の事態を免れることができた。また、CARDマウスバンクに保管されている凍結胚・精子への影響も皆無であった。災害直後から復旧まで比較的気候が安定していたこと、主要設備が破損しなかったこと、前震、本震直後のスタッフの適切な対応や気転等々、様々な幸運が味方したことも、大惨事を回避できた要因の一つであった。本報告会では、熊本地震における熊本大学生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設の被害状況および発生から復旧までの対応・経緯について紹介したい。



熊本大学生命資源研究・支援センター
動物資源開発研究部門(CARD)・資源
開発分野

中瀬直己 教授

